

宝木校区 人権協だより

平和・男女平等・環境
・生存権の確立に向けて

会長 秋山 智博

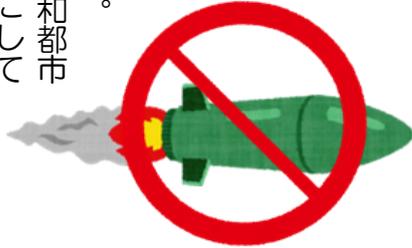
2021年が始まりましたが、表題に関わる動きをいくつか見てみます。

【①核兵器禁止条約】

この条約が1月22日に発効しました。核兵器を「つくる・持つ・使う・使うと脅す・核の傘」を禁止する国際法です。広島・長崎の惨禍を訴え続けてきた世論の結果です。

日本政府は背を向けていますが、核保有国と非核保有国の橋渡し役を掲げる以上、真の橋渡し役をするかどうかが焦点です。

鳥取市は非核平和都市宣言を1983年3月にしています。いまこそ子供たちに核兵器も戦争もない未来を渡すための行動が必要です。



【②女性蔑視

オリンピック憲章違反】

東京五輪・パラリンピック組織

委員会の先の

森会長が、2月

3日、オリンピック

ック関連会議

で、「女性がた

くさん入って

いる理事会は

時間がかか

る」「女性は競

争意識が強い、誰か言つて自分も

言わねばと思つたのだらう」「なまじ

女性を蔑視する発言をし、海外・

国内の批判を受け辞任しました。

また会議では、誰も発言をいさめ

ず笑いさえ漏れたことも問題です。

五輪憲章は、性別や人種・民族・

国籍・宗教などあらゆる差別を許

さない理念を掲げています。一連

の発言はまさしく女性の尊厳を踏

みにじり、憲章違反で到底許され

ません。

あらゆる意思決定の場に、女性が半数を占める仕組みづくりが求められます。



【③2050年・CO2ゼロ社会】

豪雨や森林火災など地球温暖化との関連が指摘される災害が相次いでおり、欧州連合など120以上の国と地域は、2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする目標を表明しています。

わが国も昨年10月に菅総理が同様の内容を宣言しこの流れに加わりました。深澤市長はこのような情勢を受け、2月議会で2050年脱炭素社会を宣言しました。

国の取り組みは、電力会社や自動車などの民間事業者の技術革新やCO2削減に委ねられる面が多くなりますが、私たちの地域でも減らすことが出来ます。



「CO2の減量やりサイクルでCO2を出す燃焼を少なくする、また太陽光パネルの設置での再生エネルギー等やCO2を吸収する森林・農地などの自然環境を守るなどです。次世代にこの地球を引き継ぐために、今、取り組まなければなりません。

【④コロナ禍の生活支援】



コロナ禍で感染防止と社会経済活動の両立が困難な日々が続いています。早期収束にはワクチン接種が急がれます。国・県・市の情報を確認して下さい。そして、生活を支える制度利用は権利ですので活用しましょう。

緊急小口資金・総合支援資金、社会保険料等の猶予、住居確保給付金、生活保護制度、傷病手当金、休業支援金・給付金など。

シエンターって？

推進員 小塩 信親

先日某元総理の失言により最近見聞きするようになったシエンターという言葉調べてみました。ものの本によると、身体的・生物学的性差を示すセックス対してシエンターとは社会的・文化的に形成される男女の違いを指す言葉だそうです。特定の性別に、社会的・文化的に期待される役割のこと

とを、性別役割と呼ばれ男は仕事、女は家庭という考え方は、その一つだ。このような、ジェンダーに基づいた社会意識によって、女性は社会参加が妨げられ暴力やセクシャルハラスメントが見過され、人権が軽視されてきました。こうした視点は後の女性解放運動によって提起されるようになり、ジェンダーという視点はそれまでの女性の人権、ひいては人権一般に対する考え方に大きな転機をもたらすことになりました。



某元総理に限らず、私の育った時代も性別役割という考え方は強かったように思います。

人権啓発に思う

副会長 西垣 守

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各方面で事業の延期・中止を余儀なくされており、事業計画通りに実施出来ない現状が続いています。

そんな中で校区人推協の重要事業である小地域懇談会・ふれあい交流会の2大事業を中止せざるを得

なくなりまりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむを得ないと納得しながらも年1回の小地域懇談会・ふれあい交流会は地域の人達が触れ合う貴重な場なのにその場所を作れない残念さがありました。

ふれあい交流会では『あらー元氣だった?』あっちこっちでそんな会話を耳にすると、ふれあい交流会の意義を改めて感じていました。

小地域懇談会は年に1度の人権学習の場であり一人一人が関心を持ち参加してほしいと思います。



小地域懇談会の部落毎開催は皆顔見知りであり、気楽に意見・感想も言えると思っていました。

同じ部落の人に「あの人は人権について、こんな意見・感想を持っているんだ」と思われたくない。顔見知り故に知られたくないから参加しない人もいます。と知りました。私の思っていた事と真逆の意見で全員がそうだとおぼろげに思いますが、そんな人もいます。

を学びました。

ただ、現在のようないじめ・感ぜない人はいないのでDVを見て日常生活の中で役立てば小地域懇談会に参加して学んで頂いた効果は充分と思う。

以前の同和問題も現在の人権も基本的に同じであり、同和問題解決のため時限立法として同対法が施行され同和問題解決のため、各地区同推協が結成され同和問題解決に向けて活動して来ましたが、同対法が期限切れとなり現在の人権に変わったことは皆さん周知のとおりだと思います。

様々な人権課題の解決と、人権を尊重した差別のない明るいまちづくりをするため、宝木校区の一人一人が人権について、小地域懇談会で学習し、みんなで一緒に取り組みましょう。「自分がされて嫌なことは人にしない、言わない・自分がされて嬉しかったことは人にもしてやれ」とどこかで聞いたこの言葉に共感し、日頃から実践しているつもりです。



誰も人に物事を頼んだり、頼まれたりはあると思います。「頼まれた時、自分に出来る事であれば快く引き受ける・出来なければはっきりと理由を言い切る。」「言い訳をぐだぐだ言いながら引き受けてもらってもお互い気分良くないと思う。快く引き受ければお互い気持ちいいはずなのに・・・」



自分をその立場に置き換えてみれば、差別・いじめ等はなくなりはないかと思ふ。自分が差別されたり、いじめを受けたらどんな気持ちになるのかを考えると、人には出来ないと思つのではないだろうか。そう思つと差別・いじめ等はなくなるのではないだろうか。

簡単には解消できないかもしれないが、一人一人が真剣に行動しいつかきつと差別等のない世の中を皆でつくりましょう。

編集後記

今年度は、「コロナにより小地域懇談会と、ふれあい交流会といった大きな事業が残念ながら中止となりました。一日も早く収束し、皆様との交流が持てることを願っております。

